

2/10 朝礼

「第7期小笠原自然体験交流体験」の話

～太田さんと井内君の H31. 3. 22～27 の5泊6日～

おはようございます。2年B組の太田真緒です。今朝は、私たちが参加した「杉並区中学生小笠原自然体験交流」について紹介します。杉並区では、中学生が持続可能な社会を考えるきっかけになることを目的として、「杉並区次世代育成基金」を活用した小笠原自然体験交流が行われています。

最初に小笠原自然体験交流での6日間の活動内容について説明します。【1日目】竹芝客船ターミナルに集合し、出発式をした後、小笠原諸島へ行く唯一の手段である、「おがさわら丸」に乗船しました。船は、週に一度、本土と小笠原を往復していて、観光客だけでなく、小笠原への貨物も運んでいます。本土から小笠原へは、約24時間かかりますが、船内にはレストランや売店など様々な設備が設けられていて、比較的快適に過ごすことができました。

【2日目】午前中には船内見学をしました。操縦室に入り、機器を見たり双眼鏡で景色を観察したりなど、貴重な体験ができました。午後に父島に上陸し、次の日の活動に備えてシュノーケリングレッスンを受けました。【3日目】小型船に乗って海の自然体験活動に行きました。美しい景色の見られる無人島、

南島に上陸して、シュノーケリングを行ったほか、クジラやイルカ、ウミガメを見ることができて、自然の美しさに感動しました。夕方には島民の方々に南洋踊りを教わり、交流することができました。これは、ビーチクリーニングで拾ったゴミの写真です。きれいに見える小笠原の海にも、意外と多くのゴミが落ちていました。ゴミの多くは、ペットボトルや空き缶ではなく、プラスチックの破片や繊維のようなものばかりでした。ウミガメは普段、クラゲや海藻を餌として食べますが、海に浮遊しているビニール袋などのゴミをクラゲと間違えて食べてしまい、死んでしまうことがあるそうです。今回、私は小笠原へ行き、たくさんの美しい自然に出会い感動したのと同時に、ウミガメやその他にも多くの海洋生物が人間の捨てたゴミに命を奪われている現状を目の当たりにしました。このような現状を少しでも改善するために、今

の私にできることは、ゴミをポイ捨てしないこと、世界の環境問題に関心を持ち、それを改善するためにできることについてよく考え、それを周囲の人に積極的に伝えていくことだと思いました。一人一人の環境問題への意識が、環境問題の解決へ繋がると私は思います。

2年A組の井内陸です。【4日目】ネイチャーツアー、小笠原フラダンス体験をしました。小笠原フラダンス体験で小中学生と交流することが出来ました。ネイチャーツアーでは、戦争の痕跡がたくさん残っているのを見ることができました。例えば米軍の墜落した戦闘機、日本軍の軍事用の壕などがあります。壕の中には、機関砲などが残っています。他にも小笠原には、絶滅危惧種のために、森林生態系保護地域というフェンスで囲まれた場所があります。そこでは小笠原の固有種を見ることが出来ます。外来種の侵入を防ぐため、靴底を洗浄することや、保護地域への立ち入りを規制するなど、小笠原の自然を保全する取り組みを学びました。【5日目】ビーチクリーニング、ビジターセンター、見送りセレモニーと乗船です。ビジターセンターでは事前に自分が調べたいテーマについて、深く学ぶことが出来まし



ビーチクリーニングで拾ったゴミ

た。見送りセレモニーでは小笠原の人達が演奏したり、海にダイブして見送ってくれました。【6日目】帰りの船内での日の出見学、班別ミーティングなどです。夕方無事に竹芝港に到着しました。私は、事前学習で空港建設について調べました。小笠原では、旧日本軍の飛行場跡地を利用した空港建設計画が浮上しています。空港を建設するには、さらに山を削り、海を埋め立てることが必要かもしれません。船で24時間かけて小笠原へ行き、島民のお話を聞くことで、空港建設は安心して暮らせるためのライフラインとして、島民が待ち望んでいることだと理解できました。私は、小笠原自然体験交流に参加して、島民の環境保全に対する意識の高さを目の当たりにし、私たちも、もっと環境問題に関心を持ち、一人一人が行動を起こすことが大切であるとあらためて実感しました。

授業ぶらっと訪問(道徳編)

2月6日(木) 1校時C組道徳 並木教諭

黒板がとてもきれいです。机もピシッとそろっています。チャイムが鳴り終わると同時に号令がかかり、全員で気持ちのいい挨拶を掛け合います。

今日の道徳は『できるようにになりたい』という教材です。**主題は目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く心情を養うことです。**冒頭、並木先生は、三学期に決めた自分の目標を書いてみるように促します。生徒は「忘れ物をしない」等と書いています。達成具合はどうか問います。自信をもって手を挙げられる人はいません。

そこで「自分の決めた目標を達成するために、どんな気持ちが必要か考えてみましょう」と言って、読み物資料を配ります。並木先生が範読しました。内容は、体育の授業で主人公のよしえが、跳び箱運動

に取り組む姿を描いています。よしえは、去年はできた台上前転が、首筋を痛めてから怖くなってできなくなってしまいます。よしえは何度も諦めかけますが、先生や友だちに応援されながら、もう一度基本練習からやり直しながら努力をした結果、再びできるようになる話です。

「よしえさんはどの人かな？」台上前転を待っている子どもたちの挿絵を示して問います。「後ろから二番目の子」「どうして?」「顔つきが違って暗い」「そうだね。じゃあ、並んでいるよしえさんの気持ちを書いてみよう」緑色カードを使って書いています。セリフの吹き出しの形をしたカードを使っていきます。みな一生懸命ペンを動かしています。書いたカードを黒板に貼ります。「正直怖い」「やりたくない」「もう一度できるようにになりたい」「逃げだしたい」という感想が書かれています。たくさん失敗するよしえさんに、たけし君が声をかけます。「もう一度、やさしいことから練習してみたら?」並木先生が、二人が話している場面の挿絵を示します。声をかけられたよ



しえの気持ちを、青いカードに書いてみるように指示します。「もうやりたくない」「何度やっても失敗するから嫌」「そんなこと言われても困る」等書きます。並木先生は「簡単なことからやりなおして、最後に見えるようになったよしえさんの気持ちを書いてみよう」とマットの上で明るい顔で練習をするよしえとまわりで応援する仲間の挿絵を示します。文章からだけでなく、三枚の挿絵を使って、よしえの気持ちを考えさせています。3回目の吹き出しカードを配ります。「やった!」「疲れたけどやった」「うれしい。みんなもよろこんでくれる」**最後にこんなことを書いてくれた生徒のカードを紹介します。「チャレンジすることは**

いいことだな!」自分のことに置き換えて「自分で決めたことをやり抜くためにどんな気持ちをもつことが大切だろう」と考えさせます。「気を抜かない」「嫌なことに立ち向かうぞ」「次はやります」「段取りを間違えない、やるぞという気持ちを強化する」「どんなことでもチャレンジ、逃げたらそこで終わりだ」ととてもよく考えて書けています。並木先生の「次の学年に上がるまで、この気持ちを忘れずに頑張りましょう」で終わりました。

2月19日(水) 道徳 1年B組 宮本教諭

1年B組は、教室の黒板がピカピカで気持ちがいい。冒頭、「**今日は命の大切さと、どんな状況にも精一杯生きていこうとすることについて学習します**」と伝えます。宮本先生は、地声が大きく指示がよく通ります。まず四つのグループに分かれて、各グループに書籍を配って、中のイラストを見ての感想を、プリントのつづき欄に書く活動から入ります。本は星野富弘さんの『愛、深き淵より』『花によせて』詩文集などの著書でした。生徒に「星野さん知っている人は?」という問いかけに、一人しか手が挙がりませんでした。生徒は星野さんのことを知りません。時代の流れを感じます。35年ほど前に、当時著書が大きな話題となり、私も道徳の教材で星野さんの生き方を扱ったことがあることを思い出しました。宮本先生が教科書の『花によせて』を範読します。生徒は静かに聞き耳をたてます。宮本先生が「星野さんは自分と同じ教員一年目という立場だったんだよ。放課後の部活動の

指導で、空中回転の着地で頭から落ちてしまい、首から下が動かなくなったんだよ」と事故の様子を話します。

星野さんが自分の絵を展覧会で発表した時の気持ちや、展覧会を見に来た人たちの評判を聞いた時の気持ちを、皆で考えます。横の人と話し合ったりしています。自分の絵がどういう風に見ら

れるか不安で、(できれば体を消してしまいたい)と思っていた星野さんが、来場者の予想外の大反響を伝えられた時の気持ちに迫っていきます。そして宮本先生が真剣な口調で、「ここを一番みんなに考えてほしい部分なんだけど」と前置きして、本文の「私は胸をなでおろした。と同時に、なでおろした胸に、何か新しいものが、息づき始めたような気がした」について、生徒に問います。「何か新しいものって何？」生徒は考えながら個々に自分の考えをまとめています。今度は縦の二人で意見を交換します。その後発表します。「勇氣」「元氣」「希望」。宮本先生が「希望ってどんな希望だろう？」それに対して、「自分は終わったと思っていた。でも人を感動させられた」「嬉しい。一生懸命に絵を描こう」といった意見が出ました。最後に、展覧会に来た人の感想を書いた「語りかけ帳」をとりあげて、印象に残った言葉を書いてみます。「絵は心」「星野さんおめでとう」「どれだけ深くどれだけ丁寧に生きるかが大切」…。「ラストの質問。なんで星野さんの絵には自然の草花が多いんだろう？」ある生徒が、「自分と似てるから」宮本先生「そうだね。動けない自分と重ね合わせているのかもしれないね」で終了しました。

2月19日(水) 道徳 2年B組 近藤教諭

冒頭、「今日は「公害」について話を考えていきたいと思います」と伝えます。難しいテーマのようです。近藤先生は教科書の本文を範読します。生徒は静かに聞いています。内容は足尾銅山の鉱毒で苦しむ渡良瀬川流域の人々のために一生を捧げた田中正造の話です。まず、川の氾濫で、育てた作物が一瞬でダメになった住民の気持ちを考えさせます。その後、正造の行動を取り上げます。住民の苦しみを何とかしたいと正造は立ち上がる。国会で一回、二回と熱弁をふるう中



で、正造側と政府側の意見の対立を、それぞれの立場になって考えさせます。正造側の意見「田畑や飲み水が汚染されていて病人がたくさん出ている」「被害者の立場になってほしい」政府側の意見「国を富ます大事な輸出品だから、多少の犠牲は仕方ない」「村のことなどどうでもいい」「銅山は止められない」「今は我慢してほしい」等立場を変えた意見が出ます。その後も洪水被害が出て、正造の「腹の中が煮えくり返る思い」で、議会に熱弁をふるう。これで政府は動き出す。この時言った、正造の熱弁を空欄にして、何と言ったか考えさせます。私が考えても難しい課題です。生徒は真剣に書いています。「住民は我慢の限界だ」「大臣は自分の目で被害を見に来てほしい」。生徒はグループになって、メンバーに考えた熱弁をふるってもらいます。が、近藤先生の期待は外れて、熱弁には至りません。机を戻してから、何人かに代表で発言してもらいます。「生まれ育った土地を捨てるということですか！」「安全第一にして銅山を停止してほしい！」「あなたたちには優しい心はないんですか？」「村の人の気持ちを考えてほしい！」といった熱い言葉が出てきました。最後に近藤先生は「正造が訴えた鉱毒のように、自分が正しいと思ったことをまわりに流されずに貫けますか？将来大人になったら、自分の思うことを貫いてほしいと思います」で終わりました。生徒はワークシートに感想を書いていました。この道徳教材は、とても重く難しいテーマです。内容が個人的なレベルの正義や公正の話ではありません。鉱毒公害という社会的な正義や公正を求めて、国家権力に

対して田中正造のように生きるとは、普通の人には、きわめて難しい。また『正義』も時代によって移り変わります。歴史の中で正義の戦争もありました。そういう背景を理解して、教科書の読み物教材を使って、近藤先生はものすごく奮闘しました。



対して田中正造のように生きるとは、普通の人には、きわめて難しい。また『正義』も時代によって移り変わります。歴史の中で正義の戦争もありました。そういう背景を理解して、教科書の読み物教材を使

って、近藤先生はものすごく奮闘しました。

2

4 (木)

1 年校外学習

～TGG体験、防災施設見学～

バスで午前中は、東京グローバルゲートウェイ（TGG）、午後は防災施設（そなエリア東京）で体験活動を実施しました。TGGでは、各班に付いてくれるネイティブのリーダーとやりとりをしながら、空港や病院、コンビニ等のアトラクションで英会話体験を行いました。1年生は、英語を駆使する作業に、頭がシビれた様子でした。防災施設では、タブレットを持って順路を移動しながら、大震災の街や避難所を体験する体験活動を行いました。



2

15 (土)

サイエンス
プログラム講座

～目指せ！科学の子～

本校の学校運営協議会の佐藤会長は、東京農工大学の名誉教授です。大宮中の自然科学部員たちを助手にして、関係小学校の児童を招いて化学の実験体験を催していただきました。知っているようで知らない水の不思議な性質について、様々な実験を通して考察を深めていました。水蒸気でマッチの火がついたのにはビックリしました。当日は大宮小から5名参加してくれました。



1

29～2/1

2 年スキー教室

長野県の菅平スキー場で、3泊4日の移動教室を実施しました。雪不足が心配される中で、初日はグレンデの所々で、ブッシュや土が見える状況でしたが、2日目、3日目の夜間に降雪があり、コンディションは日ごとに良くなりました。今年の2年生は、一人も途中で離脱することなく、元気で講習を受けていました。室内レクや雪上雪だるま作りレクも大いに盛り上がりました。



2

18～21

C組連合移動
教室(スキー)

初日こそ粉雪が舞ったものの、かえって良い雪の状態が維持され、残りの3日間は快晴の中で冬の連合移動教室が実施されました。スキー実習では一人一人が課題と向き合い、心が折れそうになるときもありましたが、あきらめることなく取り組み、レベルアップすることができました。最終日の卒業生を送る会では、1、2年生は心の込もった温かな姿、3年生は見本となる頼もしい姿を見せてくれました。【憩いのひととき】



新型コロナウイルスの影響で、今後の教育活動に大きな影響が出てきています。お子様の体調管理にご配慮いただき、毎朝の検温で発熱、だるさ等がある場合、無理な登校は避けるようお願いいたします。